

CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ABホテル犬山	階数	地下0階地上8階
建設地	愛知県犬山市梅坪二丁目22.23.24.25	構造	RC造
用途地域	特定都市河川流域(新川流域)	平均居住人員	125 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	ホテル	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2025年10月 予定	評価の実施日	2024年7月10日
敷地面積	2,779 m ²	作成者	SL石川
建築面積	377 m ²	確認日	2024年8月2日
延床面積	2,509 m ²	確認者	SL石川



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)								
<p>BEE = 1.4 ★★★★★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>★☆☆☆☆</p> <p>標準計算</p> <table border="1"> <tr> <td>①参照値</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>②建築物の取組み</td> <td>72%</td> </tr> <tr> <td>③上記+②以外の</td> <td>72%</td> </tr> <tr> <td>④上記+</td> <td>72%</td> </tr> </table> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	①参照値	100%	②建築物の取組み	72%	③上記+②以外の	72%	④上記+	72%	<p>Qのスコア = 2.9</p> <p>LRのスコア = 3.6</p>
①参照値	100%									
②建築物の取組み	72%									
③上記+②以外の	72%									
④上記+	72%									

2-4 中項目の評価 (バーチャート)		
<p>Q 環境品質</p> <p>Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.2</p> <p>音環境: 3.0, 温熱環境: 2.7, 光・視環境: 3.3, 空気質環境: 3.9</p> <p>Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.1</p> <p>機能性: 3.4, 耐用性: 3.0, 対応性: 3.0</p> <p>Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア= 2.4</p> <p>生物環境: 1.0, まちなみ: 3.0, 地域性: 3.0</p>		

LR 環境負荷低減性		
<p>LR1 エネルギー LR1のスコア= 4.0</p> <p>建物外皮の: 4.5, 自然エネ: 3.0, 設備システ: 5.0, 効率的: 3.0</p>	<p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.3</p> <p>水資源: 3.4, 非再生材料の使用削減: 3.1, 汚染物質回避: 4.0</p>	<p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.3</p> <p>地球温暖化への配慮: 4.1, 地域環境への配慮: 2.9, 周辺環境への配慮: 3.0</p>

3 重点項目	
<p>①地球温暖化への配慮</p> <p>4.1</p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p>1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>6.8 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<p>②資源の有効活用</p> <p>3.0</p>	<p>④地域材の活用</p> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材・外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
(仮称)ABホテル犬山

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		独自基準		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質												
Q1 室内環境												
1 音環境												
1.1 室内騒音レベル		0.1	3.0	0.15	3.2	3.2	1.00					3.0
1.2 遮音		0.4	3.0	0.40		3.6	0.40					
1 開口部遮音性能			3.0	1.00		5.0	0.30					
2 界壁遮音性能			3.0	-		3.0	0.30					
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			3.0	-		3.0	0.20					
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			3.0	-		3.0	0.20					
1.3 吸音			3.0	0.20		3.0	0.20					
2 温熱環境												
2.1 室温制御		0.3	2.7	0.35	2.4	2.4	1.00					2.7
1 室温		0.5	3.7	0.50	3.0	3.0	0.50					
2 外皮性能		3.0	3.0	0.38		3.0	0.57					
3 ゾーン別制御性		3.0	3.0	0.25		3.0	0.43					
2.2 湿度制御		3.0	5.0	0.38		-	-					
2.3 空調方式		3.0	3.0	0.20		3.0	0.20					
3 光・視環境		3.0	1.0	0.30		1.0	0.30					
3.1 日光利用		0.2	3.3	0.25	3.3	3.3	1.00					3.3
1 日光率		0.3	4.2	0.30	4.2	4.2	0.30					
2 方位別開口		3.0	5.0	0.60		5.0	0.60					
3 日光利用設備		3.0	3.0	0.40		3.0	0.40					
3.2 グレア対策		0.3	3.0	0.30	3.0	3.0	0.30					
1 日光制御		5.0	3.0	1.00		3.0	1.00					
3.3 照度		3.0	3.0	0.15		3.0	0.15					
3.4 照明制御		3.0	3.0	0.25		3.0	0.25					
4 空気質環境												
4.1 発生源対策		0.2	3.9	0.25	3.6	3.6	1.00					3.9
1 化学汚染物質		0.5	4.0	0.50	4.0	4.0	0.63					
4.2 換気		3.0	4.0	1.00		4.0	1.00					
1 換気量		0.3	3.0	0.30	3.0	3.0	0.38					
2 自然換気性能		3.0	3.0	0.50		3.0	0.33					
3 取り入れ外気への配慮		3.0	3.0	0.50		3.0	0.33					
4.3 運用管理		0.2	5.0	0.20		-	-					
1 CO ₂ の監視		3.0	3.0	-		-	-					
2 喫煙の制御		3.0	5.0	1.00		-	-					
Q2 サービス性能												
1 機能性												
1.1 機能性・使いやすさ		0.4	3.4	0.40	2.6	2.6	1.00					3.4
1 広さ・収納性		0.4	4.0	0.40	2.0	2.0	0.60					
2 高度情報通信設備対応		3.0	3.0	-		1.0	0.50					
3 バリアフリー計画		3.0	3.0	-		3.0	0.50					
1.2 心理性・快適性		3.0	4.0	1.00		-	-					
1 広さ感・景観 (天井高)		0.3	3.0	0.30	3.5	3.5	0.40					
2 リフレッシュスペース		3.0	3.0	-		4.0	0.50					
3 内装計画		3.0	3.0	1.00		3.0	0.50					
1.3 維持管理		0.3	3.0	0.30		-	-					
1 維持管理に配慮した設計		3.0	3.0	0.50		-	-					
2 維持管理用機能の確保			3.0	0.50		-	-					
2 耐用性・信頼性												
2.1 耐震・免震・制震・制振		0.3	3.0	0.31		-	-					3.0
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		0.4	3.0	0.48		-	-					
2 免震・制震・制振性能		3.0	3.0	0.80		-	-					
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	3.0	0.20		-	-					
1 躯体材料の耐用年数		0.3	3.0	0.33		-	-					
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			3.0	0.23		-	-					
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			2.0	0.23		-	-					
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			3.0	0.09		-	-					
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			3.0	0.08		-	-					
6 主要設備機器の更新必要間隔			5.0	0.15		-	-					
2.4 信頼性			3.0	0.23		-	-					
1 空調・換気設備		0.1	3.0	0.19		-	-					
2 給排水・衛生設備		3.0	3.0	0.20		-	-					
3 電気設備		3.0	3.0	0.20		-	-					
4 機械・配管支持方法		3.0	3.0	0.20		-	-					
5 通信・情報設備		3.0	3.0	0.20		-	-					

3 対応性・更新性					0.2	3.0	0.29	2.0	2.0	1.00	3.0
3.1	空間のゆとり				-	-	-	1.0	1.0	-	0.50
	1 階高のゆとり				-	3.0	-	-	1.0	-	0.60
	2 空間の形状・自由さ		A-16:2階平面図、資料①-1壁長さ比率		3.0	3.0	-	-	1.0	-	0.40
3.2	荷重のゆとり				3.0	3.0	-	-	3.0	-	0.50
3.3	設備の更新性				1.0	3.0	1.00	-	-	-	-
	1 空調配管の更新性	②			-	3.0	0.17	-	-	-	-
	2 給排水管の更新性				3.0	3.0	0.17	-	-	-	-
	3 電気配線の更新性				3.0	3.0	0.11	-	-	-	-
	4 通信配線の更新性				3.0	3.0	0.11	-	-	-	-
	5 設備機器の更新性				3.0	3.0	0.22	-	-	-	-
	6 バックアップスペースの確保				3.0	3.0	0.22	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)					-	-	0.30	-	-	-	2.4
1	生物環境の保全と創出	独自③	資料⑩配置図(緑地図)		-	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2	まちなみ・景観への配慮	独自④			-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮				0.3	3.0	0.30	-	-	-	3.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④			-	3.0	0.50	-	-	-	-
	3.2 敷地内温熱環境の向上				-	3.0	0.50	-	-	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性											3.6
LR1 エネルギー							0.40				4.0
1	建物外皮の熱負荷抑制		BPI=0.85		3.0	4.5	0.30	-	-	-	4.5
2	自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.20	-	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化		BEI=0.67		3.0	5.0	0.30	-	-	-	5.0
4	効率的運用				0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	-	-
	4.1 モニタリング				3.0	3.0	0.50	-	-	-	-
	4.2 運用管理体制				3.0	3.0	0.50	-	-	-	-
	集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-	-
	4.1 モニタリング				-	3.0	-	-	-	-	-
	4.2 運用管理体制				-	3.0	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル							0.30				3.3
1	水資源保護				0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
	1.1 節水		A-61UB仕様詳細図、資料⑦UB洗面節水金物		3.0	4.0	0.40	-	-	-	-
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-	-	-
	1 雨水利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.67	-	-	-	-
	2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.33	-	-	-	-
2	非再生性資源の使用量削減				0.6	3.1	0.63	-	-	-	3.1
	2.1 材料使用量の削減				-	2.0	0.07	-	-	-	-
	2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.24	-	-	-	-
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	②			-	3.0	0.20	-	-	-	-
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	独自	ビニル床材 軒天井材		3.0	4.0	0.20	-	-	-	-
	2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	3.0	0.05	-	-	-	-
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自			3.0	3.0	0.24	-	-	-	-
3	汚染物質含有材料の使用回避				0.2	4.0	0.22	-	-	-	4.0
	3.1 有害物質を含まない材料の使用		資料④-3壁紙用接着剤		3.0	4.0	0.32	-	-	-	-
	3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	4.0	0.68	-	-	-	-
	1 消火剤				-	-	-	-	-	-	-
	2 発泡剤(断熱材等)		A-10特記仕様書9、資料⑤-1断熱材ODP=0,GWP=1		-	5.0	0.50	-	-	-	-
	3 冷媒				3.0	3.0	0.50	-	-	-	-
LR3 敷地外環境							0.30				3.3
1	地球温暖化への配慮	①	ライフサイクルCO2排出率72%		-	4.1	0.33	-	-	-	4.1
2	地域環境への配慮				0.3	2.9	0.33	-	-	-	2.9
	2.1 大気汚染防止				-	3.0	0.25	-	-	-	-
	2.2 温熱環境悪化の改善		資料①-2,③ 気象データ名古屋、資料⑨卓越風向図		-	3.0	0.50	-	-	-	-
	2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	2.7	0.25	-	-	-	-
	1 雨水排水負荷低減	独自			-	3.0	0.25	-	-	-	-
	2 汚水処理負荷抑制				-	3.0	0.25	-	-	-	-
	3 交通負荷抑制	独自			-	3.0	0.25	-	-	-	-
	4 廃棄物処理負荷抑制				-	2.0	0.25	-	-	-	-
3	周辺環境への配慮				0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-	-
	1 騒音	独自			-	3.0	1.00	-	-	-	-
	2 振動	独自			-	-	-	-	-	-	-
	3 悪臭				-	-	-	-	-	-	-
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	-	-
	1 風害の抑制				-	3.0	0.70	-	-	-	-
	2 砂塵の抑制				-	3.0	-	-	-	-	-
	3 日照障害の抑制				-	3.0	0.30	-	-	-	-
	3.3 光害の抑制				0.2	3.0	0.20	-	-	-	-
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				-	3.0	0.70	-	-	-	-
	2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				-	3.0	0.30	-	-	-	-

重点項目スコアシート
(仮称)ABホテル犬山

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE: 準案(新案)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.1
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.1	0.10	
② 資源の有効活用				3.0
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.1	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:6.8%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 $\frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{重みの総和}}$

重点項目スコア= $\frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{重みの総和}}$

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)ABホテル犬山

計画上の配慮事項	
総合	犬山駅の南東側、住宅街と田園地帯の境に立地するビジネスホテルである。周辺の新しいまちづくりを意識し、今後の周辺整備の事例となる建築物を目指す。建築物単体では、省エネ設計値が適合基準を満たす省エネルギー性能を目指し、施工性や維持管理を意識したコストバランスを実現できる、快適な室内環境の整備を行う計画とする。
Q1 室内環境	ホテル客室内の居住性を考慮し、遮音性確保や採光による昼光率向上を実現した。
Q2 サービス性能	客室利用客のみでなく、建物維持管理作業従事者への配慮も行っている。標準的な維持管理仕様ではあるが、配管仕様を高品質とし、継続的なメンテナンスしやすさを考慮した設計とした。
Q3 室外環境(敷地内)	敷地内植樹など緑地計画や景観に関しては、建物配置計画による制約の中で、量の確保が十分といえない。一方、災害時対策を考慮して、建物高を生かし発電機設置や排熱放出等を建築物の高い位置からとなるよう努めた。
LR1 エネルギー	建築外皮への熱負荷を抑制する建築仕様を徹底した。また、各客室での1次エネルギー消費量を抑えることに寄与する設備選定に努めた。
LR2 資源・マテリアル	有害物質を含まない建築材料、再利用可能な部材、リサイクル材などを積極的に採用した。
LR3 敷地外環境	周辺は住宅街と田園地帯が広がる環境である。開放的なエントランスを設置し、周辺住民や地域に開けた建物を目指した。用途上、廃棄物の保管スペースや駐車場の台数確保など、建物利用者や、日常の迅速な顧客対応に配慮した動線を検討した。
その他	